

遺伝子発現制御の観点で骨格発生を理解する

日時：令和7年7月1日（火）17:00～18:00

場所：旗の台校舎 1号館 6階 会議室



大阪大学大学院歯学研究科
組織・発生生物学講座 教授

大庭 伸介 先生

講演要旨

骨格発生の鍵となる遺伝子発現制御機構の理解を目指して、私たちはこれまでに骨芽細胞と軟骨細胞のマスター転写因子群のゲノムワイドな作動様式を明らかにしてきました (*Cell Rep* 12:229-43, 2015; *Development* 143:3012-23, 2016; *Dev Cell* 37:238-53, 2016; *Cell Rep* 40:111315, 2022)。また最近は、ヒト多能性幹細胞 (ES細胞・iPS細胞) を用いた骨化過程再現系を用いてヒト骨格発生における検討も進めています (*Cell Rep* 42:112276, 2023)。本講演では一連の仕事を紹介しながら、器官発生研究の限界や将来展望についても議論させていただきます。

主催

昭和医科大学歯学部口腔生化学講座
142-8555 品川区旗の台1-5-8

担当:山田 (内線:8163)